

# 令和4年度 第2回 ACP 作業部会議事録

日時：令和5年1月27日（金）

午後2時～午後3時30分

場所：さくら庁舎35会議室

## 会長挨拶

第2回の ACP 作業部会ではフォーラムの振り返りと今後の ACP 作業部会で取り組む内容について意見交換ができればと思う。わたしノートの周知啓発や見直し、専門職についてはスキルの向上につながるように、皆様からのご意見を踏まえ内容を考えていきたいと思うのでお願いしたい。

## 事務局より

### メンバーの追加

来年度から一部メンバーの交代あり。また、地域に周知啓発を図る目的で生活支援コーディネーターにも参加頂くことになった。

## 1. 地域包括ケアフォーラム振り返り \*資料①—1、2

参加者アンケート結果、事務局側の結果まとめをもとに意見交換。

- ・一般の人は ACP をイメージしにくいいため伝えていくのは難しい。頭でわかったとしても、現場で実践しなければ広がらないと思う。
- ・今回は民生委員と専門職向けの研修会であり、内容は理解されたと思うが、今後一般住民に対しては、かみ砕いてわかりやすく説明していく必要がある。
- ・民生委員は、わたしノートについて関心が高いことが分かったが、ケアマネジャーは全体的に、まだ活用できていない部分もある。サルビー見守りネットとわたしノートがリンクすると専門職も使いやすくなるのではないかと感じた。
- ・シンポジストからの実践報告に対し、講師が補足説明をしていたのでイメージがしやすかった。
- ・入院患者でわたしノートを持参された方がいた。すでに記載されており、地域に浸透し始めていることを感じた。
- ・同じ部署の職員に対して研修会を実施して、少しずつ浸透させていきたい。
- ・施設で活用できるように施設用わたしノートを作成した。本人が書けない場合には、家族に聞くようにするが、本人について知らないことも多い。施設職員に対しても研修を行っている。

- ・スタッフの教育が必要であると思った。病棟でわたしノートを配布することもあったが、聞き取った内容をサマリーに十分書ききれていない。地域にどのようにつなげていけばよいか課題がある。
- ・40代、50代への周知も必要と感じた。社協の福祉学習にACPの内容を入れることで、若い世代に周知を図れるのではないかな。
- ・会場にて民生委員が真剣に聞いてくれたことが、伝わってきた。来年度、自分の担当地区の一人暮らし高齢者に対して、わたしノートを配布していきたい。
- ・講演内容やシンポジストの話が、重複することなく、つながりがある内容でわかりやすかった。愛知県医師会研修会で、筑波大学木澤先生の講演で「ACPは一步引きながら進めていく」という考えを聞いて、肩の荷が下りた感じがした。人生の最終段階にあり心肺蘇生を望まない方に対する搬送方法について4月1日から運用開始となるなど、様々なところでACPに関する動きがある。
- ・シンポジウムは、講師の助言、補足があり、わかりやすく伝わったと思う。西尾市のいのちの授業に参加した時に感じたことは、子どももACPについてある程度理解しており、子どもからもACPについて発信していけるのではないかなと思った。
- ・BCPについて災害弱者であるひとり暮らしや認知症の方、高齢世帯に対して、災害時にどの程度医療を望むかなど、わたしノートと関連する項目も多いと思った。災害時でも活用できるのではないかな。

## 2. 看取り体制支援プラン説明

- ・ACP作業部会実施要領\*資料②-1

令和2年度に作成されており見直しを行った。作業部会の目的やメンバー、活動期間や内容について資料のグレー部分を追加した。

- ・安城市看取り体制支援プラン（ACP作業部会説明用）\*資料②-2

実施要領に記載された目的を達成するために、地域ケア推進会議に係る部会だけでは担えない資料内のグレーで示した部分を作業部会にて取り組む予定。

- ・在宅医療・介護連携事業「ACPおよび多職種連携推進」計画(案)\*資料②-3

あんジョイプラン10（令和6～8年度）における、在宅医療・介護連携推進事業における主な活動として、高齢者等実態把握調査結果報告をふまえて地域住民へのACPの普及啓発をはかる。また、専門職向けのACPに関する研修会等への協力を考えている。

### 3. 意見交換（今後の ACP 作業部会の活動について）

#### 1) 市民への啓発について

- ・わたしノートは、「このように書きましょう」と伝えるのではなく、手掛かりが書いてあればよい。場合によっては本人が記載しなくても、本人の普段から関りがあり様子見ている家族が書いてもよいと思う。  
一番困るのは、本人も家族もわからないことで手掛かりがない状態である。
- ・福祉委員会から、わたしノートのレクチャーを依頼される時がある。地域のサロン等では、わたしノートを記載しながら皆で、おしゃべりして楽しく書いているところもある。
- ・病院の入退院支援センターにわたしノートを設置しているが、関心が高く、持って行かれる方が多い。
- ・小中学生のがん教育の授業のなかで、わたしノートを抜粋して、自分の親の好きなものなどの項目をインタビューする機会を設けた。親の人生観や価値観を知ることができ良い機会となった。
- ・施設看取りについては、家族の意向に寄りがちな面がある。本人に対してはできる限り自分のやりたいことをかなえる様に取り組んでいる。例えば「スーパーに行きたい」や「家を見たい」などの要望を個別に実施したことがある。
- ・施設内において、治療方針の意向について本人と家族でギャップがある。この場合、施設としてどのように対応すればよいか迷うことがある。
- ・わたしノートのバージョンアップについては、手帳サイズに変えると持運びやすい。また、大切な人に対するメッセージを記載する欄があるとよい。また、逆にわたしノートを読んだ人が感想を記載できる欄があるとよい。外国籍バージョンや災害時、臓器提供などの項目も追加すると良いのではないか。

#### 2) 専門職に対する研修及び啓発について

- ・ヘルパーは、サービス中にじっくりと本人の意向を聞くことはできないので、聞き出す力や聞いたことをつなげる力が大事であると思った。職場内で、研修を行い聞く力を育てていけたらと思う。
- ・伝える側の専門職も、わたしノートに記載した項目が、意思決定支援にどのようなつながっていくか理解していく必要がある。
- ・人により価値観が違い、解釈も違うのでわたしノートの記入の仕方についてわかりやすく伝えなくてはならない。また記載内容については、記載した理由を

聞くことにより、その人の価値観を知ることができる。

- ・わたしノートに記載された手掛かりを元に読み解くには、たくさんの人が関わり、話し合う必要がある。
- ・入退院時の病院と在宅間の専門職間の ACP に関する情報共有や連携についてサマリーの記載方法など課題はあるが、お互いの立場を知って理解していく姿勢が必要だと思う。
- ・専門職のための ACP マニュアルが配布されているが、職員教育が進んでいないと感じている。専門職向けに YouTube を作成し、わかりやすいように工夫している。みなさんの職場で利用していただくとよいと思う。今後サルビー見守りネットの ACP 作業部会プロジェクトに URL をアップする。利用者制限はないので必要に応じて使用してほしい。

#### 4. 広報あんじょう 2 月号掲載について 別紙資料

人生会議と地域包括ケアフォーラムの内容をまとめた。今後も年に一回、広報に掲載できればと思う。掲載してほしい取り組みがあれば、事務局に教えて頂きたい。

次回開催日 令和 5 年 5 月か 6 月ごろの予定

4 月初旬に入ってからサルビー等で日程の調整をおこなう。時間は、14 時から 15 時 30 分の予定。